

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、設問1～9に答えなさい。

(50点)

元朝が中国を支配していた14世紀において、民衆は頻発する自然災害や、交鈔の乱発および塩の専売強化に苦しめられた。こうした中で民間宗教結社の( a )が流行し、1351年には( b )が発生する。この反乱の指導者の一人であった朱元璋は、1368年に南京を都として明朝を建国し、元を万里の長城以北に追いやった。朱元璋は洪武帝と称し、中央における政治制度改革を実施するとともに、農村統制の諸政策を打ち出した。

この後、朱元璋のあとを継いだ建文帝は叔父の燕王と対立し、最終的に宦官と結託した燕王により帝位を奪われてしまう。これを( c )という。1402年、燕王は永楽帝として帝位につき、1421年には北京に遷都した。

永楽帝は積極的な対外政策を展開した。モンゴル高原への遠征、女真の服属、さらにベトナムへの出兵を通じて明朝の勢力を拡大させたのである。しかし、その一方で周辺諸国・諸地域に対して明朝への朝貢を促すため、東南アジアやインド洋にむけて船団を派遣した。この結果、明に対する朝貢国が増加しただけではなく、その船団の寄港地となったマレー半島の( d )の発展をも促した。

しかし、永楽帝のこうした政策は、経済活動を統制したうえで儀礼的な朝貢体制を維持しようというものであったため、それに対する反発が根強く残った。たとえば、タタールの( e )が交易を求めて南下したため、明朝は万里の長城の修復に追われた。さらに、中国東南の沿海地域で海賊行為や密貿易に従事する武装商人(いわゆる後期 A)がたびたび出現し、明朝を悩ませた。これらの対外危機に対して、明朝は( e )との和解や海禁の緩和などの対策を打ち出した。

16世紀以降の産業の発達や貨幣経済の浸透による社会変動に対して、内閣大学士として皇帝を補佐した( f )は検地や一条鞭法など中央政府の統制を通じた財政基盤の強化を試みた。しかし、豊臣秀吉による朝鮮出兵、宮廷内部での党争、自然災害の発生などにより、明朝は衰退の一途をたどった。こうした中、明朝の対抗勢力として中国東北地方の女真が頭角を現す。

女真は中国東北地方にあって朝鮮王朝や明朝との間で毛皮や人参などの交易を

行っていたが、1616年に、建州女真の族長の一人であった（ g ）が女真各部族を統一し後金を建国した。（ g ）は軍事・社会組織である（ h ）を整備したり満洲文字を普及させたりして、部族統一を強固にする一方で、より良い交易条件を求めて明朝との対決姿勢を鮮明にした。（ g ）の死後、その実子（ i ）は1636年に国号を清と定め、皇帝を称した。そして、南モンゴル（チャハル部）を平定し、さらには朝鮮を服属させるなど勢力を拡大した。一方、1636年に発生した（ j ）は、首都の北京を陥落せしめ、崇禎帝を自殺に追い込んだ。これにより明朝は1644年に滅亡した。

かくして、（ i ）のあとを継いだ順治帝は明朝の将軍（ k ）の手引きにより万里の長城を通過し、北京入城を果たした。しかし、清朝に対する反発や抵抗も少なくなかった。たとえば、1661年には明の遺臣 B がその父親とともに（ l ）を排除したうえで台湾に独立政権を樹立し、清朝に対する抵抗運動を試みた。さらに清の中国支配に功績のあった漢人武將は藩王として権力が与えられていたが、やがてその権力削減を求める中央政府と対立し、1673年には（ m ）が発生する。こうした危機的状況に対して、順治帝のあとを継いだ康熙帝は、1681年には（ m ）を武力によって平定し、沿海地域の経済封鎖を通じて台湾における抵抗運動を1683年に平定した。

この後、清朝は康熙帝・雍正帝・乾隆帝の政治的手腕により空前の繁栄を極めた。たとえば、対外関係においては、C と1689年にネルチンスク条約を締結してロシアとの国境を画定し、中国周辺部では藩部を設置して現地有力者による間接統治を試みた。一方、国内においてはイェズス会士らとの東西文化交流が盛んになったり、優れた文学作品や学問体系が生み出されたりした。

設問1 文中の ( a ) ～ ( m ) に入る最も適切な語句を次の語群から一つずつ選び、番号を解答欄Ⅱ-Aに記入しなさい。なお、同一記号は同一語句とする。

- |             |              |             |
|-------------|--------------|-------------|
| 1. アクバル     | 2. アユタヤ王国    | 3. アルタン=ハン  |
| 4. 安史の乱     | 5. イギリス      | 6. 駅伝制      |
| 7. 王安石      | 8. 王莽        | 9. オランダ     |
| 10. 韓愈      | 11. 郷紳       | 12. 景教      |
| 13. 黄巾の乱    | 14. 紅巾の乱     | 15. 光緒帝     |
| 16. 黄宗羲     | 17. 黄巢の乱     | 18. 呉三桂     |
| 19. 五斗米道    | 20. 三藩の乱     | 21. 士大夫     |
| 22. スコータイ王国 | 23. 靖康の変     | 24. 靖難の役    |
| 25. 赤眉の乱    | 26. チャガタイ=ハン | 27. チャンパ王国  |
| 28. 張学良     | 29. 趙匡胤      | 30. 張居正     |
| 31. チンギス=ハン | 32. 陳勝・呉広の乱  | 33. 道光帝     |
| 34. 党錮の禁    | 35. ヌルハチ     | 36. 八王の乱    |
| 37. 八旗      | 38. バトゥ      | 39. バーブル    |
| 40. 万曆帝     | 41. 白蓮教      | 42. フビライ=ハン |
| 43. フランス    | 44. ポルトガル    | 45. ホンタイジ   |
| 46. マラッカ王国  | 47. 李自成の乱    | 48. 緑営      |
| 49. 林則徐     |              |             |

設問2 下線部①について、次の1～4のうち明朝初期に行われた政治制度改革や農村統治のあり方について、正しいものはいくつあるか。その数を解答欄Ⅱ-Bに記入しなさい。

1. 元の中書省を廃止し、六部を皇帝に直属させた。
2. 魚鱗図冊と呼ばれる租税台帳を整備し、納税体制を整えた。
3. 民衆の教化を目指して、六諭と呼ばれる教訓が定められた。
4. 農村における徴税や治安維持を実施するために、里甲制を導入した。

設問3  にあてはまる集団を漢字二文字で解答欄Ⅱ-Cに記入しなさい。

設問4 下線部②にあるように、16世紀半ば以降は民間貿易が主流となり、中国の社会経済は大きな発展を遂げた。その特色として次の1～4の選択肢のなかから誤っているものを1つ選び、番号を解答欄Ⅱ-Bに記入しなさい。

1. 陶磁器と生糸が世界各地に輸出され、その代価として日本銀やメキシコ銀が中国に流入した。
2. 「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る」といわれるように、長江（揚子江）下流域の浙江・江蘇省が稲作地帯となった。
3. 商工業者は、同郷や同業の団体の活動拠点として、都市部に会館や公所を設置した。
4. 明朝と結びついた特権商人として徽州（新安）商人や山西商人が出現し、商業ネットワークを形成した。

設問5  にあてはまる人物の姓名を漢字三文字で解答欄Ⅱ-Cに記入しなさい。

設問6  にあてはまるロマノフ朝の皇帝を解答欄Ⅱ-Cに記入しなさい。

設問7 下線部③に関して、18世紀の段階で清朝の藩部ではなかった地域・国家を次の1～6の選択肢から二つ選び、番号を解答欄Ⅱ-Bに記入しなさい（順不同）。

- |         |         |       |
|---------|---------|-------|
| 1. モンゴル | 2. チベット | 3. 青海 |
| 4. ビルマ  | 5. 琉球   | 6. 新疆 |